

道の駅タウンミーティング

報告書

令和元年6月21日（金）開催

～道の駅に関する市民と市長の対話集会～

古賀市商工政策課

令和元年7月

目次

1. 古賀市道の駅タウンミーティングについて	…2
2. 開催状況	…3
①実施日時・会場・参加者数	…3
②タウンミーティング概要（プログラム）	…3
③当日の様子	…4
3. 当日寄せられた主なご意見等と市の回答	…7
①実施日時・集会開会前に記入していただいたご意見	…7
②質疑	…14
4. 参考	…23
①当日使用したパワーポイント資料	…23
②リーフレット	…29

1. 古賀市道の駅タウンミーティングについて

古賀市では、道の駅の整備について検討しています。大切な話ですので、市民の皆さんのご意見をいただきながら、夏頃までに整備するかどうかの方針を決める予定としています。

また、市民の皆さんに概要をお知らせするため、平成30年度末に策定した基本計画（暫定案）の要点をリーフレットにとりまとめ、市公式ホームページに掲載するとともに市内全域に回覧し、令和元年6月7日（金）から7月3日（水）まで意見募集を行いました。

加えて、市長が直接市民の皆さんと話し合える場づくりとして令和元年6月21日（金）に道の駅タウンミーティングを開催しました。

道の駅タウンミーティングでは、104名もの方々にご参加いただきました。

タウンミーティングでは、多くの市民の皆さんに参加していただいたことに大変感謝しています。

また、道の駅整備に関する意見募集では、373人（令和元年7月16日現在）の方からの意見が寄せられ、道の駅に対する市民の皆さんの関心の高さを実感しています。

道の駅については、議会や今回のタウンミーティング、意見募集での市民の皆さんの意見を踏まえ、整備するかどうか判断して参ります。

私たちのまち古賀市をより良くしていくためには、道の駅だけでなく様々な課題について、一人一人が当事者意識を持ち、認識を共有し話し合える場を作っていく必要があると考えます。

今後ともどうぞご協力をお願いいたします。

令和元年 7月

古賀市長 田辺 一城

2. 開催状況

①実施日時・会場・参加者数

日時：令和元年6月21日（金）19：30～21：30

会場：リーパスプラザこが 交流館 多目的ホール

参加者数：104人

住所	人数
市内	88
古賀東	(18)
古賀西	(16)
青柳	(8)
小野	(5)
花鶴	(12)
千鳥	(8)
舞の里	(11)
花見	(10)
市外	3
その他（無記名など）	13
合計	104

②タウンミーティング概要（プログラム）

○開会・資料確認等

○市長あいさつ（これまでの経過・趣旨説明等）

○基本計画暫定案説明（パワーポイント）

○質疑応答

より多くの参加者のご意見をお聞きするため、質疑応答を下記の2段階に分けて行いました。

①事前に「市長に聞きたいこと」を参加者に記入していただき、ご質問の内容を分類して、見える化するとともに、分類した内容ごとに市長がお答えしました。

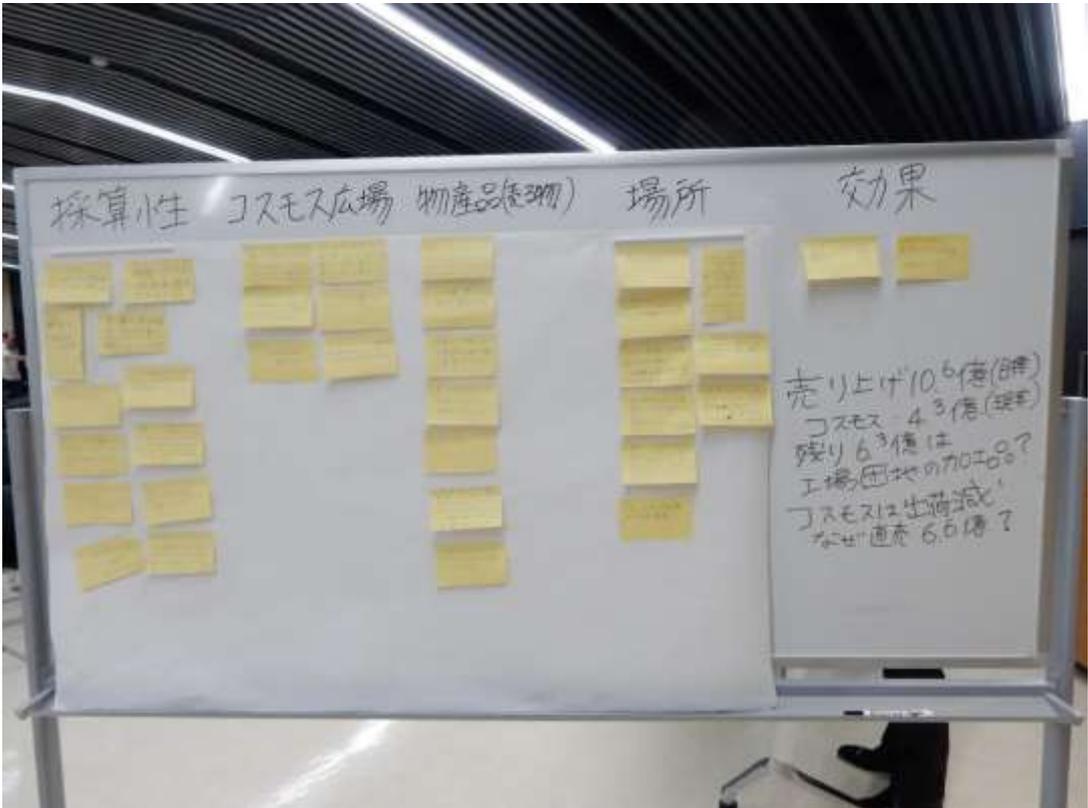
②挙手していただき、直接ご質問いただき、市長がお答えしました。
12名の方からご質問をいただきました。

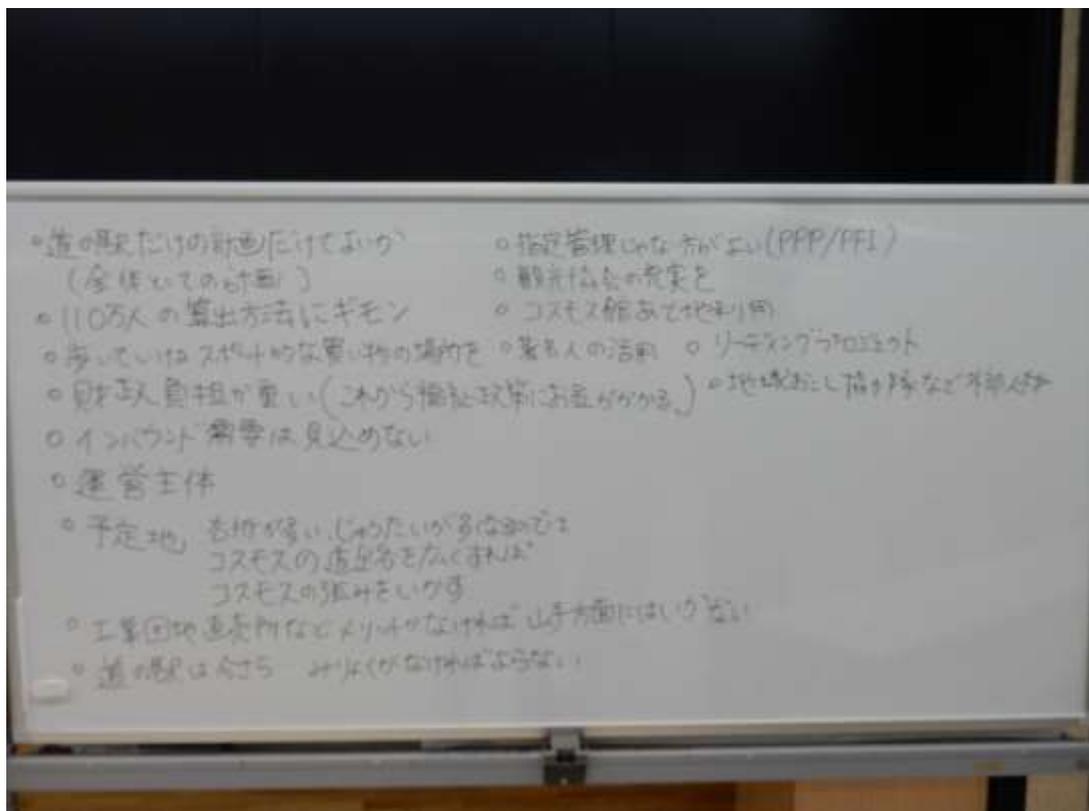
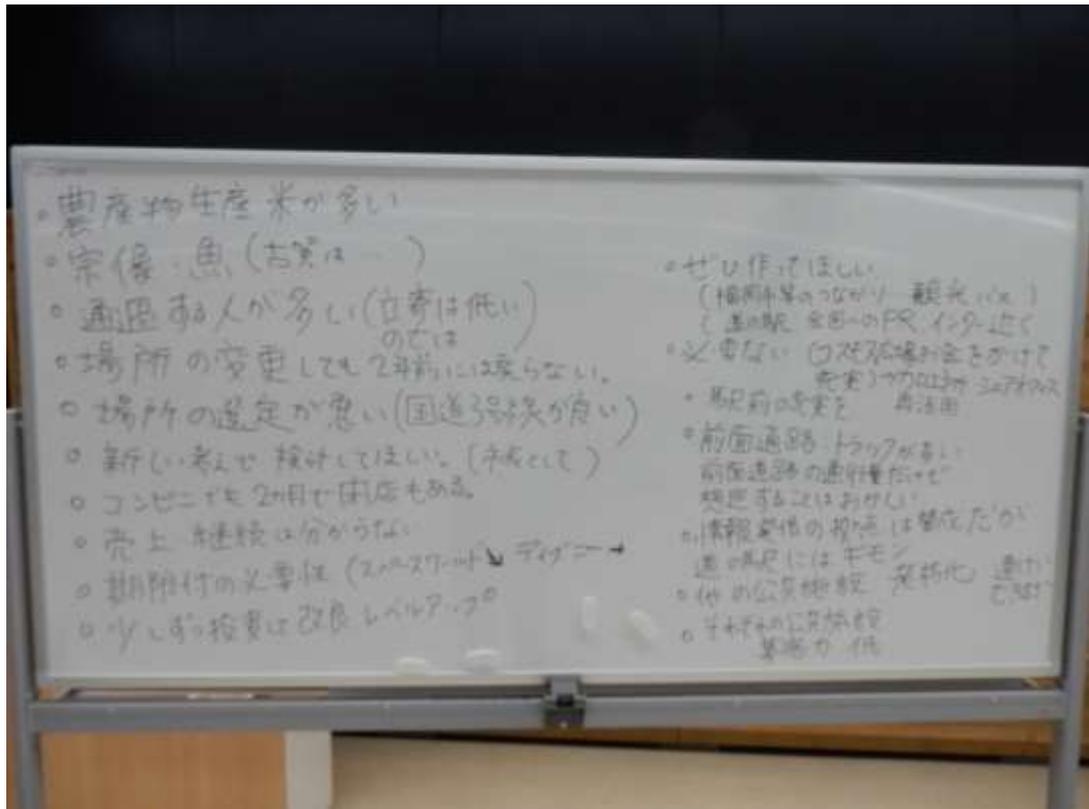
○閉会

閉会後も市長・副市長は会場に残り、参加者の方から直接お話を伺いました。

③当日の様子
○会場の様子







3. 当日寄せられた主なご意見等と市の回答

①実施日時・集会開会前に記入していただいたご意見について

※記入していただいたご意見は原文のまま

(採算性について)

- かなりの投資になると思いますが、その採算見通しがこの計画では心配
- 採算はとれるのでしょうか
- 利益3千万円で借金返済ができるのか
- 国、県の補助金は返す必要はないかもしれないが、事業をする以上、この分ももうけなくては
- 10.6億円の積算は
- かかる経費と今後のランニングコストやコスモス館との在り方がどうなるのか
- 古賀に住んで5年ほどになりますが、グリーンパークさえ利用したことありません。最近通りかかりました。立派な建物でした。表の部分を利用して道の駅であれば結構だと思いますが、いまさらの建物建設は??です。巨額投資での回収は厳しい。
- PPP/PFIに関する研究動向、市の負担額を下げましょう
- 採算がとれればやってください
- 自己負担、15.5億円はムダ使い
- 儲けがあるか心配、集客が集まるのか。
- 市の負担する15億円とんでもない、福岡都市圏に道の駅など必要ない。若い人がいくもんか、整備の検討を見直すべき、高齢者には近場に小さな産直商店を作るべき。

【回答】

- 採算性、一番気になるところだと思う。22億円かかって、今のところ15億円超が市の負担、20年の償還というのが基本計画暫定案として示させていただいている。
- 基本的に15億円は借金し、20年間で返していく。運営は指定管理を想定しており、全国から公募し民間に運営を担ってもらうことになる。民間により赤字にならないようにうまく運営されることは期待できる。しかしリスクはあり、基本的には5年程度の期間で運営を行っていくことになるので、次の5年後、どうするかを民間事業者は判断することになる。仮に道の駅を整備し、運営する事業者がいたとして次の5年後、継続するのか、もしくは新しく受けてくれるところが出てくるのかということになる。初動の5年で厳しい結果が出れば次がなくなる可能性はある。道の駅は公共施設であり、持続的に運営しなければ、ただの箱になってしまうので、そうならないようにしなければならない。今の基本計画暫定案の想定では、20年間では運営が成り立つとしている。

(場所について)

- ・場所の検討を
- ・現在の候補地を見直してほしい。なぜこの場所が候補地なのかわからない。国道3号線沿いで新たに候補地を見つけるべき。
- ・インターを活用ということが再々言われているが、3号線での道の駅はできないのですか
- ・道の駅予定地は産業道路沿いのため場所が良くない。農産物は
- ・場所がとても人が集まる場所とは思えない。市民の足も不便。他市の状況などもっとたくさん調査し、市民に知らせる必要があると思う。判断材料不足。自然も史跡も他自治体からの集客ができるほど、インパクトがない。
- ・グリーンパークとコスモス広場がだめな理由。
- ・場所が悪い。古賀市民さえいけない。
- ・最近では高速道路の途中に道の駅を作る市町村もあり、古賀インターの周りの開発ができていないので、そこに作ってもよいのでは。
- ・候補地30地点はどこですか。

【回答】

- ・場所については、人が集まりにくい等の意見はよく聞いている。
- ・平成29年度に可能性調査を行い、古賀市内で30か所を抽出、比較検討を行い、昨年の5月に前市長が現在の候補地としているという背景がある。
場所の話をもう一度ということになると同じ作業が発生すると思われる。1つの論点として、これを本市として許容できるかという問題にはなる。もう一回場所を考え直すということは、2年前に戻って1から考え直すということになる。場所を変更することについては、1から考え直すということを皆さんが許容していただけるかというのが課題となる。
既に1か所に絞ってきたこれまでの経緯を考えると、古賀市の判断としてひっくり返すということになると0から道の駅をやるのかどうかを考えることになる。行政を代表する市長としての立場では、今までの営みの上に立って判断するのが妥当であろうと考えていて、今の材料で8月ごろに判断したいということをして市長の姿勢として申し込んでいる。

(特産品について)

- 古賀市に名産品、特産品、その他いろいろな物産は少ないと思うのになぜ道の駅を作るのか、必要ないと思います。
- 10億売るのは何を売なのか。
- 特産品は何ですか、お客様はそれを購入に大勢来られますか。
- 農作物だけではなくて物販をやることも検討していただきたいです。
- 売り物
- 全国の道の駅で何%が黒字なのですか。そういった状況でこの古賀市にどんな目玉があるのでしょうか。とても疑問に思います。行政としての目玉を教えてください。そういった整理がまずは必要ではないでしょうか。意見を聞かせてください。
- 古賀市をPRするのに道の駅が妥当と考えた経緯は。
- 古賀市の目玉になると思う。
- 道の駅の効果がわかりにくいので、プラスマイナスで整理して教えてほしい。

【回答】

• 議会でも同様の質問をいただいたが、コスモス広場の皆さんは本当に努力をされていて、4.3億円を売り上げており、たしかにピークは5億円を超えていたが、農業を取り巻く状況は非常に厳しい。努力いただいて4.3億円出している事実はすごいと思っている。

今、コスモス広場は主に生産者だけで運営されている。例えば、道の駅を整備するのであれば、JA 粕屋さんと連携できるか、合わせて何を売なのか、農産物だけではないと思っている。この町は大きな魅力があると思っている。

市長就任後、近隣の道の駅のある市の状況も確認したが、宗像や糸島と比べると農産物生産の規模感としては厳しい状況にある。そのような実態も確認しながら検討しており、判断材料の一つとしていく。

• 特産品など古賀市に魅力があるのかという質問を多くいただいているが、個人としては魅力があると思っている。

道の駅をやるかどうかは置いておいても、このまちは工業製品出荷額の食品の分野が県内2位であり、工業団地の企業と連携・協力し、魅力を磨いていくことは必要と考えている。

道の駅というと農産物のイメージがありそれは大事なことではあるが、例えば、宗像の道の駅、海産物のイメージが強くブランドとして強い。古賀市には食料品に加え、工業製品があり、中小企業者さんに頑張ってもらっており海外に輸出している商品もある。道の駅をやるのであれば、そうしたものが統合されるということが必要で、採算性にもつながっていく可能性はある。売るものはあると思っており、やるならば、それをどう発掘し、磨いていくかということになっていく。

(周辺施設との連携について)

- 薬王寺温泉を有効に活用できないでしょうか
- 内容的にグリーンパークと競合する、これについては？
- 観光を考えて道の駅を作るなら、こうざんえん、船原古墳、小野公園、薬王寺温泉を含めて、大規模に開発されればと思う。小さな開発では人を呼び込むことできないのでは
- 薬王寺温泉、コスモス広場などなど、今ある施設の整備をしてもらいたい
- 道の駅に関して周辺整備はどうされるのか
- まつり古賀の会場に活用してほしい
- 多くの他市町村から集まれると思います。
- コスモス館が現在、午前中に品切れになる中、コスモス館の再開発は考えないのか。また、グリーンパーク周辺は開発の余地があると思うが、現在、連携がうまくいっていない。グリーンパーク、クロスパル、コスモス館の複合的な開発（例えば、ユリックス（宗像）のような形）にするためにお金を使うのはだめなのか。

【回答】

- 大事な視点であると思う。古賀市には魅力的な資源があり、これまで情報発信については頑張ってきたが、まだまだ十分に魅力を発信できていないと思っている。
- 先日、全国市長会に行った際に福岡県古賀市長ですというと、福岡県のどこ？と言われた。これは現実として受け止めなければいけない。だからこそ知名度を上げる必要があると考えている。市長に就任してから、いろいろな情報発信をしたり、柳川市と連携したり、戦略的にやっている。魅力ある資源があると考えており、それを武器にして発信して人を呼び込むことはまだまだできる。
- 観光物産の拠点を構想しなければならないということは公約としている。何らかの情報発信の拠点は必要と考えている。
情報発信の拠点を活用して、薬王寺温泉、船原古墳、青柳宿等、このまちにあるいろんな地域資源を知っていただけるのではないかと。また、観光は古賀市の範囲だけでなく、知恵を絞る必要はあるが、福津、宗像、粕屋、遠賀郡を含めて、周辺地域と連携することも重要。それが今、前市政からの営みを踏まえると道の駅がいいのではという提示になっている。別の手法もあり得る。

(コスモス広場について)

- 今のコスモス館はどうするのか、こわすのはもったいない。野菜の生産者も少なくなり、それをかまなうことが無理ではないか、今日、わいわい舞の里に行きましたがやはり商品は少ないです。今のコスモス館の中に地場の野菜を取り入れたレストラン（バイキング）を設置するのよいと思います。
- コスモス広場を整備して道の駅にすることは難しいですか、新しく建物を作る必要がない気がします。
- コスモス広場はどうなるのか
- コスモス広場の用地はどうなるのか
- 道の駅できた場合、今のコスモス館の利用は今の時点で考えていないとのことですか、2～3案市の考えを提示すべきかと考えます。

【回答】

- コスモス広場は、道の駅を整備するのであれば、発展的に合流したいという市の考えはあるが、市だけで決められるわけではない。コスモス広場とは少しずつ協議をさせていただいており、整備するとなれば、丁寧に協議しながら検討していく。

(ほかの事業を重視)

- 道の駅よりまだ何かすることはしないのか、22.6億円
- 千鳥苑の建て替えに回してください。

【回答】

- 千鳥苑を含めて公共施設が老朽化している。古賀市では公共施設の総合管理計画を作っており、今年度・来年度の2か年でそれぞれの施設の個別計画を作る予定としている。

これから先10年、20年先を見据えて、それぞれの施設をどうするのかという個別の計画の策定に着手していく。

個別計画策定の策定過程で、なくす、その機能はどこかに移すという選択肢もあるかもしれない、建て替えや新設という発想も選択肢としてはある。お金の問題が生じてくる。この2年間勇気をもって検討していかなければいけない。

あらゆる公共施設について、1人1人の市民に既得のニーズがある、それでもなくさしてください、統合させてください、という話を古賀市は決めていかなければならない。非常に厳しい時に市長にさせていただいているが、前向きにやっていきたいと思う。

- 議会ではありがたいことにと説明しているが、やらなければならない事業はたくさんある。議会でも一丁目一番地と言っているのは古賀駅周辺の再開発、20年仕事になるが、これにしっかり着手するということで、今年度、調査を予定しており、どのような空間にするのかイメージ図を作らないといけない。それを提示して、地権者と話すことが大事。これは数十億の仕事になる。新原高木、今在家などの開発可能エリアで企業誘致のための土地利用転換も控えている。先ほどの公共施設の統廃合も控えており、お金がかかることはたくさん発生する。発展可能性があるといういい方もできる。

- 道の駅についても、様々な面から検討していく。

(運営について)

- 運営の主軸をどのような団体にするか、商売のプロに任せる

【回答】

- 運営については全国から公募し指定管理を想定している。
- 今回の道の駅の事業は、中村市長時代から観光拠点整備の必要性があるとして2年前から始まっており、私もそれ自体はその通りだと思っている。
私自身も選挙では観光物産、情報発信の拠点が重要だとは言っている。ただし、道の駅に言及していない。選挙で明確に意思表示していないことから、現時点では、行政の継続性を重視すべきだと思っており、だから就任後、ここまで検討を引き継いでやってきて成果物をお示ししているというところ。今の話を踏まえて様々なご意見をいただければ、どんどん吸収させていただき、今後の判断の大切な材料としていく。

(その他)

- 市長の決断を期待しております。
- 道の駅作るにあたりどの程度調査をしたのか（私は大阪から日本海～青森～大阪と30日かけて回ったことあり）
- 福祉課を本庁舎の中に移してほしい。高齢者は不便である。
- 110万人のうち市民の数
- 全国の道の駅の黒字は何%

【回答】

- 全国の道の駅の状況は国等から正確な情報が発信されていないので、はっきりとは答えられないが、新聞報道等をみると全国の道の駅の中で3割が赤字ではないかということ言われている。
- 前市長も当時答弁しているが、（運営者が）赤字になるようならばやらないし、やっではいけないと考えている。
- 本日のタウンミーティングも踏まえて様々な面から検討していく。

②質疑（12人）

【1人目】

Q. 売上の件をお聞きしたい。道の駅をつくっても、今のコスモス広場の売上（4.3億円）は基本的にかかわらず、売上想定の10.6億円の部分から4.3億円を引いた残りの売上が道の駅を作ることにより生まれる新たな売上ということになると思う。その6億3千万円の売上を作るために食品工業団地の製品等をそこで販売するということがあったが、レストランや自動販売機も含まれるかもしれないが、大多数は食品工業団地の製品を売るために、15.5億円もの市の予算をつぎ込んで道の駅を造るということになるのか。

A. 売上目標の根拠は、農産物で6.7億円、物産品で1.8億円、レストランで1.4億円、テイクアウトで0.7億円、合計で10.6億円となっている。

道の駅の利用者数を年間約110万人と見込んでおり、この数字は、前面道路の交通量から、一般的な高速道路のPA（パーキングエリア）への立ち寄り率を参考として算定された数値である。その立ち寄った人のうち、道の駅の収益施設にどこか一つ立ち寄り人、あるいはどこにもよらない人の割合を想定している。例えば農産物直売所には約半分の人が訪れるとし、コスモス広場の客単価を参考に1,200円で設定し売上を算出。物産も同様。レストランもいろいろな客層に合わせるために2種類用意し、その客単価は1,070円、アイスクリームなどの軽食、テイクアウトの単価を550円と想定。このような数字の積み上げから売り上げの10.6億円という数字を算出している。

売上の想定というものは、計画なので何かの根拠に基づいて算出しなければならない。大学が出しているデータ等に基づいて数字を出させていただいている。

Q. 農産物で6.7億円ということだが、この資料の中で、コスモス広場の売上は、10年前は5.6億円、それが10年たって現在のコスモス広場の売上が4.3億円と売上が落ちている。その原因は、農業従事者の減少や高齢化であり、コスモス広場に商品を供給する出荷量が減ったのが大きな原因と書いている。コスモス広場から道の駅に変わったら、どうしてそんなに売上が増えるのか。

A. コスモス広場は主に地元の農家の出荷者が組合を作って運営をしている。年間の売上が4.3億円であり、今のコスモス広場だけの運営では、この数値の達成は難しいという認識は持っている。

まず、販路ができないと売上が上がってこない。ここが確保されないと農業者の所得向上は難しい状況にある。

生産は年々下がっているので、生産の効率化や付加価値の高いものを作っていくといかないといけない。そういったことに対して行政が支援していかないといけない。担い手の絶対数は減るので基盤整備やハウスへの補助を合わせ技でやっていく。生産支援を行いながら、販路、出口の確保もしていく必要があり、そのための道の駅であり、そのような場があれば買ってもらえる機会も増えるのではという思いがある。6.7億円の売上を上げるためには、コスモス広場だ

けでは厳しいと思っており、道の駅を整備するのであれば、JA 粕屋等と連携しなければいけないとは考えている。

【2人目】

Q. 古賀市の農業産出額のうち、その多くが米であり、野菜は残りのわずかと言えるが、コスモス広場で4億円売られている。わずかなものしか古賀では作っておらず、売るものがないのではないか。

宗像では魚が大きなウエイトを占め、19億円の売上、270万人の来客がある。110万人を集めることになっているがこんな場所に人を集める見通しが立つわけがない。通過する人はいっぱいいるが、店に立ち寄る人はいない。場所を考えるならば市民が歩いて行ける場所を考えなければ成り立たない事業ではないか。成り立たない事業はやめるべき。事業をやる視点で考えると売るものがないとできない。

場所を変えてもらい、市民の過半数、110万人ならばそのうち60万人程度の子賀市民が利用する見通しがないと無理があるのでは。

A. ご意見として受け止めさせていただく。

【3人目】

Q. 先ほど市長から場所の再検討をすると2年前に戻るといった話があったが、それはなぜなのかよくわからない。今までの検討結果は場所が変わっても使えるのでは。場所ありきのように聞こえ、場所を変えたら1から出直しのようになぜ市長がそこまでこだわっているのか。私は場所が一番問題であり、なぜあのような便利の悪いところをつくるのか、競合するコスモス広場の目の前でもある。将来的には合流するという話もしたが、コスモス広場の後利用や今入っているところはどうするのか、いろんな問題が出てくると思う。古賀市の国道3号線は、南北に縦断し、一番交通量も多く、利便性も高い。3号線沿いでなぜやらないのか、不思議、商売する人間は人通りが多い場所を選定する。土地代は高いが、それなりの営業利益がある。それなのになぜあの場所なのかかわからない。そういったことで採算性の話も出てくるし、コスモス広場の件も考えるのであれば別の場所で考えた方がよい。

A. 2年前に完全に戻らなくても今検討している資料があり、それを再検討すればいいのでは、ということはおっしゃる通りである。場所の再検討について、なぜ、この1か所で継続しているかということ、現在の候補地こだわっているわけではなく、昨年5月に当時の市長が30か所から候補地を決定しているという事実を継続している、という現状である。

場所の再検討も選択肢としてはあり、その場合、道の駅を整備することを前提に、場所の検討が続くということになり、私は今、その選択はとっていない。今までの検討プロセスを踏まえ、まずこの形でやるかどうかを判断したい。

Q. 新しい考え方で1から再検討して新しい古賀にしてほしいという思いで田辺市長が市民か

ら選ばれたのではないか。今までの検討結果を重視しすぎるのではなく、新しい発想で取り組んでもらいたい。

A. 新しい考えで、というのはありがたいことである。なぜ私がこの計画暫定案を出しているかというと、これ自体は平成30年の予算でやった成果物である。これをいきなり公約にも挙げていないのにひっくり返すのはおかしいと思っている。2年間税金を使って検討結果が成果物として策定されており、まずこれについて市民の皆さんがどう思っているか、当初予定されていなかったタウンミーティング等の対話の場を作りながら、2年間やってきたことへの評価を8月ごろにしている。一端、今までの流れに乗り、これまでの営みについて判断をしたい。そのあと何もしないわけではなく、観光・情報発信の拠点は必要だと考えており、道の駅を整備しない場合でも、何らかの観光の拠点について検討しないと約束違反になると考えている。

【4人目】

Q. 本日のタウンミーティングでも、採算の話が挙がっている。

コンビニなどでは新しくオープンしても2か月で店を閉めたとか、1年前は多くの来客があったが最近閉めたとかというような話がよくある。採算を今の時点で議論しても答えはでない。オープン時は10億円の売上もあり得るが、これが続いていくかはわからない。

一番いい例が岩田屋で今売れているものを一生懸命売っても厳しく、流行を取り入れたビジネスをやっていたが、最終的には伊勢丹に吸収となった。今の時点で採算を議論しても確実性としては意味がないのではないか。

今のコスモス広場で4億円の売上があれば、場所を100mずらしてもそれなりの売上になる。ただ、最初からお金をかけるのではなく、ディズニーランドのように毎年投資していく方法もある。行政は土地に対する投資はいいが、場合によっては今のコスモス広場の規模で運営しその後、足湯をつける等、毎年投資をして売り上げを目標まで上げていくことが重要ではないか。

A. とても大事な指摘であると受け止めている。借金をし、20年かけて返していく想定の下にやっている。そのためには確実に（運営者）の黒字が出る状況に努力をしないと前提が崩れていく。議会では、8月の意思決定までに暫定案を精査しているが、それを引き延ばすことはしない。そこまでで精査し判断する。

【5人目】

Q. 私は道の駅をぜひ作っていただきたい。古賀市はICがあり、国道があり、福岡市から30分つながる。また空港からもそれくらい。

私は旅行業で大型バスを使う。道の駅は全国的に知名度があり、道の駅として整備すれば、全国に知れ渡る。道の駅ができないのはもったいない。

黒字や赤字といった問題は企業努力。やろうと思えばこれ以上のこともできるかもしれな

い。コスモス広場も含めオール古賀でやっていくとよい。

10年先を考え、よりよい古賀を作っていただきたい。私は仕事でよく見ているが、全国の道の駅を回られている人もいますが、3号線ではなくてもICの周辺、宗像を含め中心部から離れている道の駅は多い。それは安い土地があったから。

そしてそこに集客しており、集客は企業努力。情報を発信することで、バスは寄ってくれる。なぜなら大型の観光バスは30分から1時間の間に必ずトイレ休憩を10～15分とる。観光客が来るのにはそういった条件がある。そしてPRできれば必ずそこに立ち寄る。トイレに加え買い物をする。宗像は魚介が少し高く売られているが売れている。

古賀でも工業団地の商品に限らず、売れるものを売る。新鮮な野菜もあり、それを活用したレストランもあり得る。道の駅は意味があり、集客できる可能性は十分ある。

A. 古賀市は全体としてそもそも地の利があり、交通の要衝であり、古賀市内のどこにあるということではなく、市内の場所はどこであれ有効な潜在力があるというご提案であったと思う。

【6人目】

Q. 私は必要ないという意見。まず新たに作るよりもコスモス広場にお金をかけて充実させるべき。現在も古賀市・道の駅で検索するとコスモス広場がでてくる。15億円もかけ新しく道の駅を作るのではなく、コスモス広場にお金をかけてはいかがか。

また、別の手法であれば、JR古賀駅前を北九州市の旦過市場のようにアーケードを作るなど、駅前にもっとお金をかける方が市のPRになるのでは。

売上の想定について、その道はトラックの利用が多いので、利用者110万人について前面交通量からPAの立ち寄りで算出したとのことだが、その方法では算出できないと思う。高速道路は旅行目的で通る方が多く、その条件で算出できるが、二日市線は産業用道路であり、車の量が多いから110万人の利用者を見込むのは安直すぎる。同様の考え方で売上を見込むのはプロの人が計算をした考えなのか疑問を持っている。

A. 前面交通量から利用者数を算出するという手法は、一般的な手法である。ご指摘のとおり、想定しているのは産業用道路であり、一般的な手法であるからと言ってそのまま使っているのかという考えはあるかもしれないが、産業用道路であってもトラックの運転手が休むことも考えられる。

基本的に道の駅は休憩施設が大前提であり、そうした人にも使っていただくことになる。計画なので、前面交通量から出すしかないが、先ほどの意見を踏まえると、集客については経営努力で新しく立ち寄る人を呼び込むべきではないか、魅力あるものにすれば可能ではないかという考えもある。

【7人目】

Q. 情報発信拠点の必要性については賛成するが、道の駅には疑問を感じている。ほかにも公共施設がありメンテナンスが行き届いていない中で、候補地の周辺ではグリーンパーク、クロ

スパル、コスモス館の3つがあり、連携ができておらず、個々の利用者も少ない。

この場所に道の駅を作った場合に3施設の連携ができるのかという疑問。収益があがっていない施設もある。

近隣の宗像ユリックスでは商機能を活かした複合的な公園として再整備している。古賀市では待機児童0など教育面のいい取り組みがある。商・工・教育の3つを活かしていくような税金の使い方があると思うがどうか。

A. ご提案の内容はこれからを考えていく上で参考となるものであり、道の駅に限らず、公共施設の機能を連携させ、相乗効果を上げる発想は重要な視点である。個別計画策定の中で慎重に考えていく。

Q. 教育、商、工、農の機能で個別計画ということになると一つ一つの計画では活かされることになるが、例えばコスモス館が営業しているときにグリーンパークで野球大会が開かれる際に昼食を買いに行くような連携がみられない。個別計画の中でそれぞれの連携も考えていくのか。

A. まず、全体的な施設の考え方が統一にならないといけませんが、その前提は策定している。今後、個々の施設の計画を作る必要はあるが、統廃合等についても個別計画策定のなかで検討していく。先ほどの買い物の話は運用の話になるので別途考える必要がある。

【8人目】

Q. 市長の観光PRの熱意はわかりやすい。

道の駅ができるらしいということは風の噂で聞いていた。リーフレットをみると行政が整備を前提としていると、とらえて今日出席している。

今、市長はそういうことではないと話されているが、前面交通量から110万人、こんないかげんな出し方はない。市の負担、約15億円を20年で返済と書いてあるが、これは税金。利子も含めて返す必要があり、15億円一括で払うか、20年で払うかどちらにせよ市民の税金は使うことになり、納得いかない。福岡、県南には道の駅が多くあり、大任町に立派な道の駅がある。トイレに1億円かけてあり、大変立派で驚いた。市長は道の駅にトラックが停まって買い物と言われたが、道の駅にトラックは停まらない。地元の人だけ。福岡都市圏に道の駅を考えること自体がまずおかしい、若い人は福岡市に行く。先ほど古賀市の課題で少子高齢化等の話があったが、それは全国的な問題でそういうことを切り口に考えないと私たちがいつまでも車を運転できるとは限らない、若い人は道の駅に行かない、今日も高齢の方が多く、車の運転ができなくなったときに近場に産直の買い物ができるスポット的な拠点を作った方がコンパクトで大々的に税金を使う事業として評価でき、道の駅は説得力がない。

やるのであれば住民投票をし、全市民の意見を問うべき。

A. こうした意見をしっかりいただくためにこの会を開いている。このリーフレットもどう受け

止められるかは、作り手としては「道の駅を整備するかどうか検討しています」という文言を平易なタイトルとして意図的につけた。行政はやるつもりと捉えられるのであれば、作成した側の責任にはなるが、全部引き取らせていただく。今のご意見もまちを歩いていると同様の趣旨の話をいただくこともあり、他にも同じことを考えられているかともいるということを受け止めさせていただく。

【9人目】

Q. 調査票も出したが、要点は3つ。1つは財政負担が非常に重く、市の将来に重みになるため、コスモス広場の拡充がいいのでは。拡充とは、PB（プライベート）ブランドの加工場所やシェアオフィス等がある。古賀市の高齢化率は低い方、今までは健康保険、介護保険は健全にきていると思う。この計画の20年後、これから5、6年後にどうなるか、今後福祉の負担が重くなる。15億円の財政負担は無理がある。

2つ目にインバウンド110万人にそれほど期待ができない。インバウンドを大きくするには観光資源のルートに入らないと難しい。もう一つは担い手の不足・高齢化。コスモス広場の運営主体は組合で市の直営ではない。民間の受け手を募ることになるが、今の案で、毎年7億円償還しないと、その負担は大きく、どこから支出するのか、組合員に負担を求めるのは厳しい。

※基本計画暫定案では、開業から4年目以降に17年間、市が毎年6千万～7千万円の償還を行うこととしている。

A. これまで出てきた論点を含めてご指摘いただいた。今のコスモス広場の運営は組合を作ってやっている。基本計画暫定案では、指定管理を想定し基本的に全国公募としているが、これで決めているわけではなく、個人的には地元の関与がなくなるのはいけないと思っており、地産地消にこだわり、古賀市民もかかわっていく必要があると考えている。

【10人目】

Q. 場所について、福岡市からくる場合、久山からよりも流の交差点等3号線から入る車が多く、この状態では右折車が多いと思う。先ほど渋滞のことも考えてこの場所ということだったが、右折車が多くなることで渋滞が増えるのでは。コスモス館を拡充し、現在の多目的広場の道を広げる、新しい用地を駐車場にして歩道橋を整備する等、今あるものを拡充してすることで道の駅とすることはできないのか。公園が横にある道の駅は家族連れにとっては遊べて買物もできる道の駅はうれしい。場所としてはうれしいが、こんなにお金をかけなくても今あるものや道を広げることを希望する。

A. コスモス館の強みを伸ばすのがいいのではという意見であったと思う。道路の問題はどこであって起きる問題であり、検討の結果、今のところが最も適地ということになっており、ご懸念については受けとめさせていただく。

【11人目】

Q. 古賀に住んで5年、山手の方にはあまりいったことがないが、工場団地に左衛門があることを知って、お土産として買っている。何かメリットがあれば、山手でもいく。福岡市から来たが、伊都彩菜や道の駅むなかた、遠くても行くメリットがあれば、辺境のラーメン屋であってもおいしければいく。はたして古賀の山手の産業用道路に人を呼び込む魅力があるか。キャンピングカーで九州各地の道の駅を活用しているが、古賀の青柳の産業用道路の立地はどうか。初めて産業用道路を通してグリーンパークがあり、その向かいに道の駅の用地があることを知った。道の駅は約20年前から全国で流行った話であり、今更と感じている。

宗像のような魅力がなければ古賀を通り越して宗像や伊都彩菜に行く。コスモス広場に立派な庭があり、道の駅の手前の段階で実験的にすることも検討すべき。

現在のコスモス広場の売上は4.3億円とのことだったが、飽和状態にあるからということであれば理解できるが、売上が落ちているということであれば、まずはコスモス館の一部を整理し、古賀の名産品が知られるようになり、全国津々浦々から人がくるということになれば時代遅れではあるが道の駅の整備を検討したらいいのでは。

A. 市政運営を預かるものとして、道の駅とは別にしても、古賀市にも魅力ある産品や資源はたくさんあると思っている。それを磨いて打ち出していけばという視点は持っておきたい。コスモス広場だけをみると売上が下がってきているが、それでもなお、このまちが魅力にあふれているという大前提に立ってまちづくりの運営をおこなっている。

そして道の駅が大きなテーマになっており、それは今まで2年間検討をしてきたものであり、大前提はこのまちは何も無い、足りない、このまちに魅力がないという話のご意見として伺うことはあるが、そういう前提には立ちたくない。46の自治会あり、どの地区にも魅力がある人やモノ、コトがあるが、それを打ち出すことができていない。つないだり、磨いたりできていないということを問題意識として持っており、まちづくりの前提として観光物産の拠点が必要だと思っている。

【12人目】

Q. 3月に行われたタウンミーティングでは、運営は直営であるべきでないという話をさせていただき、今回の説明では指定管理を想定しているとのことだが、指定管理でない方がいいと考えている。

PFI/PPP等、介護支援課の関係で国有地を50年、賃貸借の権利を与えて建物を建築する形で上五島の事業者が古賀に進出された。同じように30年の運営権を出す代わりに公共施設ではなく、民間施設を建ててもらおうようにして市の財政負担を減らし、民間に資金調達をってもらうような財政的な検討はしたのか。なぜ指定管理ありきで説明があったのか。

古賀市には観光協会があり、法人化し、旅行業の免許を取って地元のボランティアと一緒にまち歩くような地元発のツアーを行い、古賀にお金が落ちるようなことができるはずであるが、コスモス広場だけではなく、観光協会等、オール古賀の機運を作ることについてどう思っているのか。

コスモス館を新築移転するということになると思うが、跡地利用について、シェアオフィス、ワーキングスペースというのはあり得ると思うが、具体的にどう考えているのか。

古賀に来てもらいたい、今、食をテーマにとのことだったが、例えば古賀の出身の井上泰幸氏の作品が体験できるような、古賀の方が作った全国的なもの活用しないのか、今は実現できる低めの集客数を出されていると思うが、もっとチャレンジできるものはないか。PFI/PPP事業でリバレインにアンパンマンミュージアムが入っているような事例もある。

横田副市長にうかがいたい。旧自治省の時のリーディングプロジェクトの色々な課題が表に出る前に後始末の手法として道の駅が出てきたと認識しているが、当時の背景を踏まえ、なぜ、あの候補地にしたのかうかがいたい。

嶋田課長は4月から商工政策課長になっている。3月のタウンミーティングで地域おこし協力隊を活用し、コスモス広場や観光協会に寄り添えるような職員を配置してはどうかと提案をしたが、しっかり引継ぎがなされているか。道の駅を作る際、作らない場合においても外部人材の活用の検討はされているのか。

A. 道の駅との関連はさておき、地域おこし協力隊について、地域に入ってきていただき、一緒にまちづくりをするというご提案をいただき、その後、副市長等も交えて庁内の会議で検討してみてはどうかという話はしている。2、3か月前の話であるが、具体的にどうするかは決まっていない。

著名人の活用、アンパンマンミュージアム等、いろいろなアイデアがあり、ご提案いただいた井上泰幸氏は特撮美術監督で4年前に美術展も行ったが、古賀市の地域資源であり、観光情報発信拠点に活かすということについては、実際に整備するということになった際にはそうした発想でいろいろなものを組み込んでいくということは大事だと思っており、人が寄ってくるものにしなければならない、ここに行きたいという仕掛けは必要であると思っている。

観光協会の充実を含めたいろいろな組織との連携と認識しており、重要な部分としてコスモス広場を中心に話をしているが、当然に、作るなら、まちの魅力を作り、発信していく、産業力の取り組みであり、地元の間人がしっかりコミットしていくのが当然であり、ご指摘の観光協会や商工会やNPO等、様々な団体、人と協力して一緒にやっていかなければならないと思っている。

(嶋田課長)

指定管理がわからない方もいらっしゃるかもしれないので、まず説明させていただく。指定管理方式は、市が建てた施設に対して、料金の徴収や維持管理というものを民間に総合的に担っていただく方式のこと。これは公設民営、市が建てた建物を民間のノウハウを活かし運営していただくための手法である。先ほどのご質問でPPP/PFIというものが出てきたが、これは民間で建ててもらい、運営も民間でやってもらうものであり、市の持ち出しを減らすことや、より民間のノウハウが発揮できるという利点がある。

今の市の暫定案は、あくまでも公設民営、市が建てて民間で運営してもらう手法である。そ

の手法として全国公募で指定管理にしようという計画を立てている。

なぜ、PPP/PFIという方式をとらなかったかというと、道の駅の目的の一つは、情報発信で公共施設としての機能が必要であるということ、また、農産物の販売をするのは市の施策として農産物の消費の拡大・振興という目線があり、もし民間に全部を任せただけの場合、高額な販売手数料などによりその施策の達成が懸念されることも含めて、基本計画暫定案では公設民営でかつ指定管理で行ってはどうかというふうに考えている。

地域おこし協力隊については、今はまだ道の駅を整備するかどうか決まっていないう段階である。道の駅を整備することを前提として地域おこし協力隊などの活用を一步進んで考えるのは現時点では時期尚早であると考えている。私は4月から商工政策課長に就任しているが、3月のご提案は大事に引き継いでおり、もしも市長がやると表明されたときには、地域の皆さん、市民の皆さんの知恵を出し合うためにも外部人材の活用を検討していくべきだとは思っている。しかし、現時点でどう進めていくかを具体的に検討し発言するのは時期尚早ではと思っています。

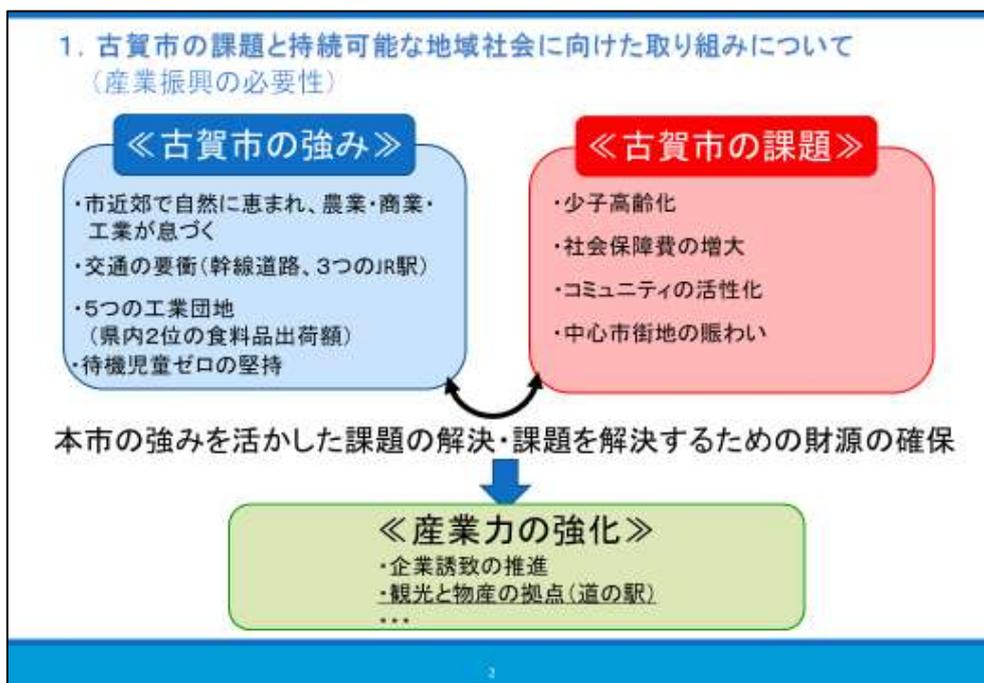
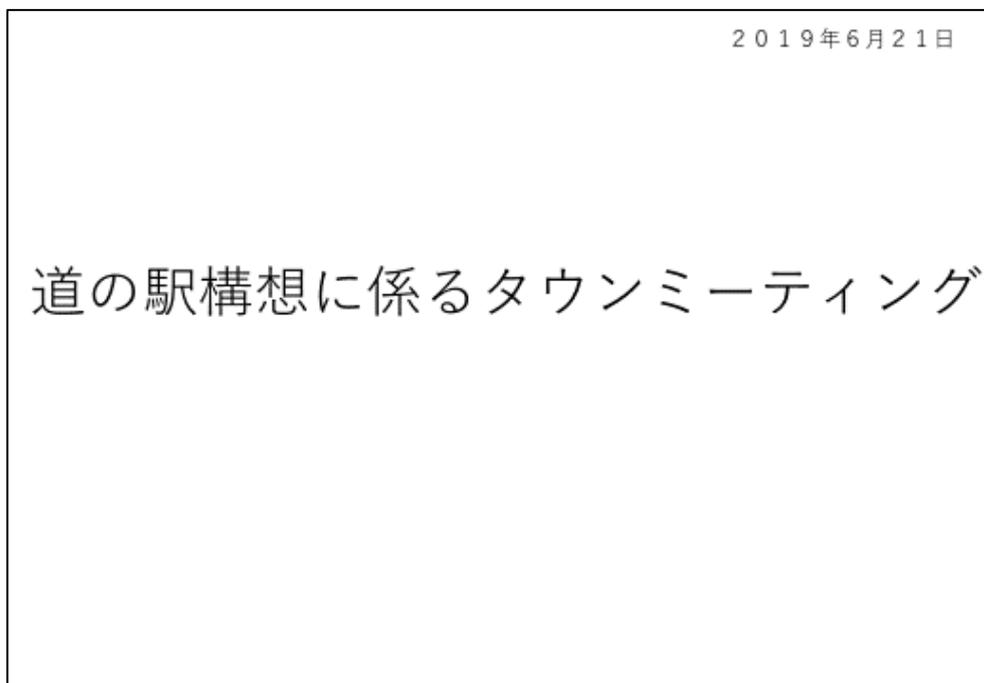
(横田副市長)

先ほど、コスモス館のリーディングプロジェクトということで懐かしい言葉がでましたが、グリーンパークの2期計画は高齢者・障がい者と共に生きるというテーマで当時の自治省の先進的なリーディングプロジェクトとして採択いただき、工事を行った。その中に、コスモス館、当時は物産館という仮称であったが、作っており、そのリーディングプロジェクトの中の目的は高齢者の生きがい支援をメインの目的とし、そこから波及して農業の振興が下にいついてきた。

後始末という厳しい言葉をいただいたが、そうではなくて、例えばもともと農家をされていたが高齢で子供が跡を継がれたという話があった場合、子供は大規模に農業をされ、JAの部会に入り大量の出荷をされる、一方で、お年をめした方が、量はたくさん作れないが、作るの好きなので、1、2畝(うね)玉ねぎ、白菜、大根を作ったりする。その時に売り場があると現金化できる。生活する糧というよりも、お小遣いになるかもしれないが、働いてできたものがお金になるということは、やりがい、喜びがあることであり、そういう仕組みを作ろうというのがもともとのコスモス館の成り立ち。そういう意味では現在も仕組みは続いており、コスモス館はそれ以外にも例えば大きなロットを作れない、小ロットしか作れないけれども、ここに持って行って売ればお金になる、お客さんが集まる仕組みを作っているの、そういう意味でコスモス館は現在もうまくしていると思う。ただ、売上が少し減ってきたという懸念はあるが、コスモス館がうまくいっていないから新しく作るという発想は全くない。

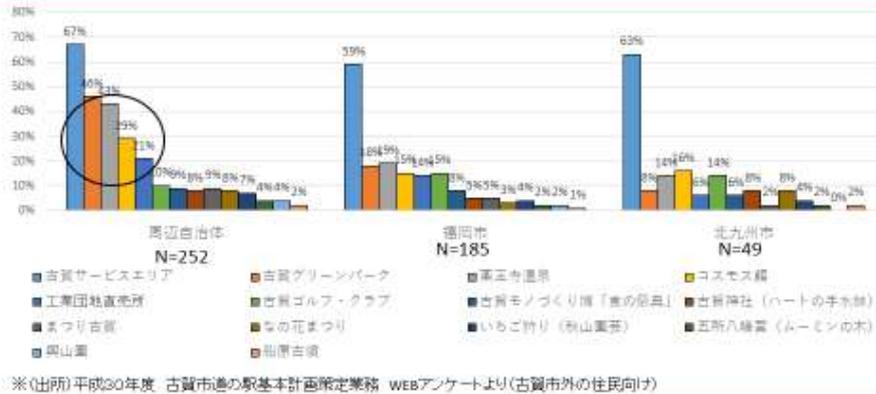
4. 参考

①当日使用したパワーポイント資料



2. 古賀市の地域資源とその認知度

- 産業力の強化を図るためには地域の資源の活用が重要な視点。
- 古賀市には薬王寺温泉、コスモス館、工場直売所等、多くの魅力的な資源があるが、特に市外での認知度は高くない。
- ⇒貴重な資源を多くの人に知ってもらうために、観光の拠点が必要ではないか。



3. 観光拠点を道の駅として整備するメリット

《地域にとってのメリット》

- ①国の政策との合致:
国においては、道の駅は産業振興に加え、移住や地域福祉、防災等様々な機能を有する地方創生の拠点として期待。道路管理者との一体型整備や各種補助制度の活用による財政負担の軽減も期待
- ②産業振興:
地域の特産品を活用したオリジナル商品の開発・ブランド化、直売所による地産地消を通じた農業振興、一元的な観光情報の発信による観光振興等
- ③ブランド化:
地図やカーナビ、道の駅ホームページ等の情報媒体への掲載による知名度向上
- ④インバウンド対応:
筑紫野古賀線は大宰府市と宗像市を結んでおり、「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録を受け、外国人観光客を中心に観光バスの増加が予想。古賀市では大型バスと運転手が休憩できるスポットが少なく、大きな課題

《地域にとってのデメリット》

- ①駐車場及びトイレの24時間利用に対応した維持管理費の負担や夜間の防犯対策が必要 (周辺に住宅等が立地する場合は夜間の騒音・振動対策も必要)
- ②無料駐車場を道の駅利用者以外が利用することによる混雑や渋滞等の発生
- ③大型車両の利用による騒音・振動の対策や歩行者の安全確保が必要

4. 候補地の選定について

(1) 一次選定における区間の設定

検討 主要な幹線道路(国道3号・国道495号・主要地方道筑紫野古賀線)を以下に示す計15区間に分け、道路の両サイドの30地点から用地が確保できる場所を抽出(既に民間施設が立地している場所は費用、交渉時間の観点から除外)



区間①	福津市境～千鳥パークタウン南
区間②	千鳥パークタウン南～流
区間③	流～久保石原
区間④	久保石原～花見丘入口
区間⑤	花見丘入口～新宮町境
区間⑥	福津市境～花見
区間⑦	花見～流岸地蔵場入口
区間⑧	流岸地蔵場入口～新宮町境
区間⑨	花見～流
区間⑩	流～太郎丸
区間⑪	太郎丸～古賀浄水場入口
区間⑫	古賀浄水場入口～古賀IC入口
区間⑬	古賀IC入口～町川原
区間⑭	町川原～グリーンパーク入口
区間⑮	グリーンパーク入口～新宮町境

4. 候補地の選定について

(2) 二次選定における比較検討結果

- 候補地①(国道3号 千鳥パークタウン南～流 東側)
 良い点: 交通量が多い
 悪い点: 用地費が高い
- 候補地②(筑紫野古賀線 古賀インター入口～町川原 東側)
 良い点: 古賀に入り口からアクセスがよい
 悪い点: 前面道路に接する間口が狭い
- 候補地③(筑紫野古賀線 グリーンパーク入口～新宮町境 東側※コスモス広場)
 良い点: 用地取得の必要性がなく、コストが安い
 悪い点: 前面道路に接する間口が狭い、
 福岡市からの交通を考慮した場合、信号で滞留する恐れがある
- 候補地④(筑紫野古賀線 グリーンパーク入口～新宮町境 西側)
 良い点: 前面道路に対して間口が広い
 悪い点: ③と比較するとコストがかかる

平成30年度5月
市長が候補地として選定

5. 道の駅の規模について

○道の駅の用地面積:約23,000㎡

○主要施設の面積:約1,980㎡



6. 道の駅の施設テーマ

《道の駅の施設テーマ》

フードホールが

古貨産の新鮮食材や食品加工工場直送のオリジナル商品等を“買い”、豊かな自然に触れながら“食べ”、加工体験等の“食育”の場も提供する、古賀の“食”の魅力・資源をフル活用した複合施設

《導入機能、利用イメージ》

*道の駅が中心となって担う機能

①古貨産品の魅力を創出・発信する拠点

○農産物直売・物産販売

- 直売コーナー
 - ・現在のコスモス広場の直売所機能の拡充
- 鮮魚コーナー
 - ・鮮魚も含めた水産物の拡充
- 工場製品直売コーナー
 - ・工場直売所の出張店舗(村舎直売、出来立て食品)
 - ・道の駅オリジナル商品等の販売(限定販売、コラボ、テスト商品)
- デリ・惣菜コーナー
 - ・地元食材を使った惣菜、おふくろの味(地元の人気会など)
 - ・ご当地グルメ(焼き立てパンなど)
- ワゴン販売コーナー
 - ・話題のスイーツ、工場製品のワゴン販売



工場製生地直売コーナー

冷蔵販売

デリ惣菜の販売

②食や体験プログラムの魅力を創出・発信する拠点

○レストラン

- ・産直食材を活用したご当地メニューの提供
- ・青柳川や隣接地の風景を眺める登山カフェ

○軽食加工(テイクアウト)

○親水ひろば

- BBQ広場
 - ・青柳川や田園風景を眺めるBBQ広場
 - ・物産施設で購入した食材の料理も可能
- 子供の遊び場
 - ・じゃぶじゃぶ池、遊具など

○24時間利用可能なトイレ、自動販売機等 (道の駅の基本機能)



キッチンカー

BBQ広場

川遊び場(じゃぶじゃぶ池)

6. 道の駅の施設テーマ

《道の駅の施設テーマ》

フードホールこが

古産産の新鮮食材や食品加工工場直送のオリジナル商品等を“買い”、豊かな自然に触れながら“食べ”、加工体験等の“食育”の場も提供する、古賀の“食”の魅力・資源をフル活用した複合施設

《導入機能、利用イメージ》

※道の駅以外の周辺施設との連携により発揮される機能を含む（想定）

③市内の回遊・交流を促進する拠点

○観光案内所

・観光情報発信の場

○各種体験教室（食育施設）

・食品加工体験

・ご当地メニューの料理教室など

○市内ツアーの拠点

・工場見学ツアー、軍物持帰りツアー、農業体験

ツアー等の発着地



食品加工工場の見学ツアー



農業体験



食品加工体験



食育教室



料理教室

④防災拠点（可能性）

○平時の防災教育（将来的な可能性）

・パネル展示や情報発信モニターでの啓発

・防災訓練の実施

○発災直後の避難施設（将来的な可能性）

・道の駅や駐車場を一時避難スペースとして活用

・かまどやトイレに転用可能なベンチの設置

○発災時の復旧拠点

・広域支援拠点としての活用

・道の駅や駐車場への仮設施設の建設など



情報発信モニター



防災のかまど

5

7. 道の駅の売上などの想定

- ・利用者：約110万人/年（前面交通量からの算出）
- ・売上：約10.6億円/年
- ・営業利益：約2,970万円/年（運営事業者の収益）

8. 費用

- ・総事業費：約22.6億円
 - ・そのうち市の負担額：約15.5億円
（国や県から入ると想定される補助金などを除いた分の負担額）
- ※借入れも行いながら20年間で返済する予定です。

9. 開業までのスケジュール

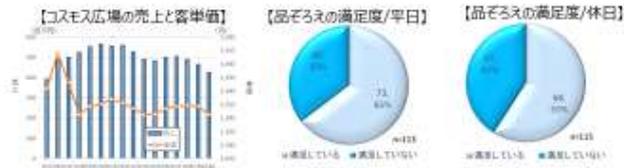
※整備する場合

- ・2019年度：用地造成の基本設計
- ・2020年度：用地造成の実施設計、運営事業者の募集
- ・2021年度：用地の購入、施設の建築設計
- ・2022年度：施設の建築工事
- ・2023年度：開業

10

10. コスモス広場について

- ・道の駅を整備することになった場合、コスモス広場の農産物直売機能について発展的に合流できないかと考えています。
- ・コスモス広場の売上は、ピーク時には5.6億円(H20)ありましたが、近年では4.3億円(H30)と減少傾向にあります。生産者の高齢化に伴う出荷量の低下や農家数の減少等の原因が考えられますが、農業は古賀市にとって重要な産業であり、食糧自給率アップや、耕作放棄地の増加による荒廃を防ぐためにも一層の振興が不可欠です。
- ・コスモス広場は新鮮な野菜が手ごろな価格で手に入るとの声が多く、市内外に愛された施設であり、その機能を道の駅に合流し、食品工業団地やJA等と連携し、機能を拡充することにより、ブランド力が向上し、より多くの方々の来客につながることを期待されます。
- ・整備することとなった場合には、生産者をはじめ、コスモス広場利用組合としっかり協議を行ってまいります。



道の駅を整備するかどうか 検討しています

リーフレット

古賀市では、道の駅の整備について検討しています。たいせつな話ですので、市民のみなさまのご意見をいただきながら、夏頃までに、整備するかどうかの方針を決める予定としています。

【今の古賀市の現状】

- ・古賀市は、豊かな自然に恵まれ、国史跡として指定を受けている船原古墳をはじめとして、薬王寺温泉、あまおう、スイートコーンといった多くの地域資源があります。しかしながら、これらの地域資源の認知度は残念ながら、まだまだ高いとは言えない状況にあります。

【観光拠点（道の駅の検討状況）】

- ・このような現状を踏まえ、市では、平成29年度から市外に向けて地元農産物の販売や観光PRを促進する場として、さらに、市民の皆さんが気軽に利用し、古賀市の魅力を再発見していただく場として、どのようなものが望ましいか検討を進めているところです。
- ・特に古賀市は食料品製造業の出荷額が福岡県内で第2位を誇り、月末の工場直売イベントでは市外から高い集客力があります。また、仮に古賀市に道の駅を整備した場合、福岡市から一番近い道の駅となり、インバウンド需要等を獲得できる可能性を秘めており、本市の特徴である食をテーマとした観光拠点は大きな魅力があると認識しています。
- ・一方で、施設の整備には多額の費用が必要となります。道の駅として整備することで、知名度アップや整備の際の市の費用負担軽減などのメリットがあるものの、国の基準に沿った駐車場整備や24時間利用に対応した維持管理費の負担等のデメリットもあります。

【市民のみなさまへ】

- ・市としては、市民のみなさまにも現在の検討状況を知っていただく必要があると考え、平成30年度末時点の計画（暫定案）の要点をこのリーフレットにとりまとめ、お示しすることといたしました。ご一読いただき、ぜひご意見をお寄せくださいますよう、お願いいたします。
- ・なお、本内容は、道の駅を整備する場合、どのような機能・規模が想定できるかを検討したもので、あくまで暫定案の位置づけであり、整備が決定しているものではありません。

【道の駅整備に係る意見募集】

○資料の閲覧・意見提出期間：6月7日(金)～7月3日(水) ※当日消印有効

○提出方法：①～③の方法で調査票を入手し、商工政策課宛てにご提出ください。

- ①この調査票をコピー（原本は閲覧板に戻してください。）②市ホームページから印刷③以下の閲覧場所に設置している調査票を活用（郵送・メール・FAX・持参でご提出ください）

※道の駅整備に関する詳しい資料は、以下で閲覧が可能です。

市ホームページ、市商工政策課窓口、サンコスモ古賀、市役所案内コーナー、リーバスプラザこが、古賀市隣保館（ひだまり館）

【タウンミーティングについて】

道の駅について市民のみなさんと市長が直接対話する対話集会を開催します。

○日時：6月21日(金)19時30分～（受付19時～）

○場所：リーバスプラザこが交流館多目的ホール

事前申し込み不要で、
どなたでも参加できます

○問い合わせ 市商工政策課

電話 942-1176 FAX 942-3758

✉ shoukou@city.koga.fukuoka.jp

● 道の駅の売上などの想定

- ・利用者：約110万人／年（前面交通量からの算出）
- ・売上：約10.6億円／年
- ・営業利益：約2,970万円／年（運営事業者の収益）

● 費用

- ・総事業費：約22.6億円
 - ・そのうち市の負担額：約15.5億円
（国や県から入ると想定される補助金などを除いた分の負担額）
- ※借入れも行いながら20年間で返済する予定です。

● 開業までのスケジュール

※整備する場合

- ・2019年度：用地造成の基本設計
- ・2020年度：用地造成の実施設計、運営事業者の募集
- ・2021年度：用地の購入、施設の建築設計
- ・2022年度：施設の建築工事
- ・2023年度：開業

● 道の駅の施設イメージ



● 道の駅の整備を通じて解決が期待される市の課題

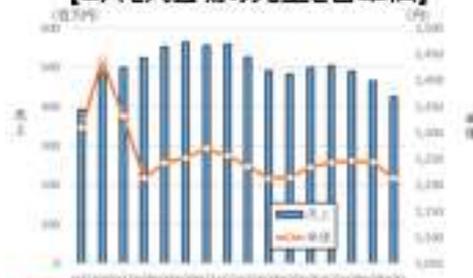
- ・古賀市の地域活力の向上、魅力の維持増進、交流人口の増加促進（通過交通の多さ、周辺の観光需要の取り込み）
- ・市民生活の利便性の向上（市民が気軽に利用し余暇を過ごす空間の創出、買い物や飲食の場）
- ・産業のさらなる振興（農商工や観光の魅力・稼ぐ力の向上、加工品の開発・販売、市のブランド力の向上。市民の新しい事業やチャレンジの支援）
- ・発信力の向上（古賀市の魅力を市内外に発信する力の向上）

本内容は、関係機関・関係者等との調整前のものであり、今後変更になる可能性があります。

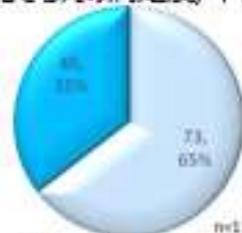
● コスモス広場について

- ・道の駅を整備することになった場合、コスモス広場の農産物直売機能について発展的に合流できないかと考えています。
- ・コスモス広場の売上は、ピーク時には約5.6億円(H20)ありましたが、近年では約4.3億円(H30)と減少傾向にあります。生産者の高齢化に伴う出荷量の低下や農家数の減少等の原因が考えられますが、農業は古賀市にとって重要な産業であり、より一層の振興が不可欠です。
- ・コスモス広場は新鮮な野菜などが手ごろな価格で手に入るとの声が多く、市内外に愛された施設であり、その機能を道の駅に合流し、食品工業団地やJA等と連携し、機能を拡充することにより、ブランド力が向上し、より多くの方々の来客につながることを期待されます。
- ・整備することとなった場合には、生産者をはじめ、コスモス広場利用組合としっかり協議を行ってまいります。

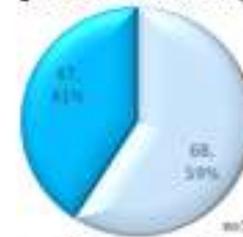
【コスモス広場の売上と客単価】



【品ぞろえの満足度/平日】



【品ぞろえの満足度/休日】



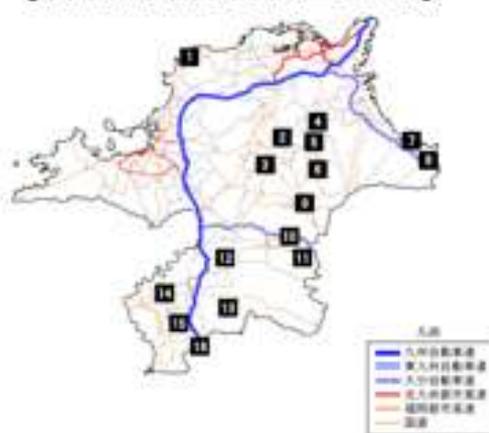
●満足している ●満足していない
コスモス広場利用者へのアンケート (H29観光拠点設置可能性調査)

● 道の駅とは

- ・国土交通省によって登録されている道の駅は、1,154駅(平成31年3月現在)。
- ・従来の休憩機能、情報発信機能に加え、現在では、道の駅自体が目的地となり、まちの特産物や観光資源を活かして多くの人々を呼び込み、雇用創出や経済の活性化、住民サービスの向上に貢献する地域活性化の拠点として期待。
- ・福岡県内では、16の道の駅があり、仮に古賀市に整備されれば、福岡市から一番近い道の駅に。

■ 道の駅の基本コンセプトと基本機能

【福岡県内の道の駅の立地状況】



おひなた、いとが、させい、豊栄、おれとく、豊原、
野田、ひらた、豊前、おれとく、しんよしとみ、ゆき、
豊前、おれとく、おれとく、おれとく、おれとく、おれとく

